

# 12/27 ~ 1/4

## 主な施設の 閉庁・休館

### 年中無休

クールセンター(8~21時)  
☎946-4894  
夜間専用(21~8時)  
☎948-6685

休まず開館・営業

- 道後温泉本館・椿の湯
- 坂の上の雲ミュージアム
- 市営駐車場(市役所前地下・二番町・中之川)
- 時間変更して開館・営業
- 松山城 ☎921-4873

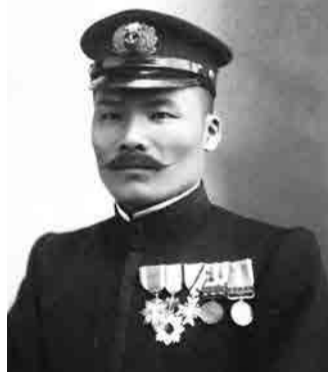
天守のみ入場できません  
1月1日(火・祝) ロープウェイのみ6時から運行  
○松山総合公園 ☎923-9439  
1月1日(火・祝)のみ6時から開園  
☆4日は松山競輪場で払い戻しのみ

### 施設(連絡先)

施設(連絡先)	は開庁・休館日		は平常通り開館・営業	
	12月	平成25年1月		
本庁・支所・出張所				
市民サービスセンター				
市バスポートセンター				
市保健所				
松山市斎場				
防災センター				
クリーンセンター				
中島リサイクルセンター				
横谷埋立センター				
大西谷埋立センター				
図書館				
総合コミュニティセンター				
松山市民会館				
北条市民会館				
北条ふるさと館				
中島総合文化センター				
二之丸史跡庭園				
子規記念博物館				
考古館				
松山中央公園各施設				
北条スポーツセンター				
中島B&G海洋センター				
野外活動センター				
松山競輪場・二番町前売サービスセンター				
サイクルパーク				
市営駐輪場				
市役所前地下駐輪場				
コムズ				
市総合福祉センター				
児童センター・児童館				
まちコミニオスポーツセンター				
まつやまRe・再来館				
青少年センター				

## 12/15(土) ~ 2/11(月・祝)

### 子規博特別展 「水野広徳 - 軍服を脱いだ平和主義者 -」



水野 広徳(軍人時代)

【期間】12月15日(土)~平成25年2月11日(月・祝)  
【会場】子規記念博物館(道後公園) 3階特別展示室  
【内容】本市出身の水野広徳は、海軍将校として日露戦争に従軍し、また日本海海戦の戦記で当時一大ベストセラーとなった『此一戦』を執筆した人物です。後に海軍と決別して平和主義に立つ評論家として

活躍し、戦争へと向かう時代の中で非戦と世界平和を訴え続けました。今回の特別展では、直筆原稿「剣を吊るまで」や著書『此一戦』遺品(軍帽・双眼鏡・礼服)など、これまで公開する機会の少なかった関連資料を一堂に展示します  
【観覧料】200円(高校生以下は無料)  
お問い合わせは、(教子規記念博物館 ☎931-5566・FAX 934-3416)

みどり味酒地区  
地域で市長と話そう!  
タウンミーティング No.32

11月8日開催・味酒公民館・参加者74人

地区の方の声

安くて新鮮で何でもそろう

庶民の台所、萱町商店街があります

●庚申庵や松山総合公園など、史跡や公園が充実しています

●まちづくり協議会の進捗状況と今後の取り組みについて教えてほしい

●味酒小学校前の歩道橋を学校敷地内に引き込んでほしい

※抜粋、要約しています。詳細は市ホームページに掲載します

お問い合わせは、市民参画まちづくり課 ☎948-6383・FAX 934-3157



地区の課題を話す参加者

### 募集「まちごと省エネ×松山」 エゴ川柳

省エネ・節電を啓発する未発表でユニークな川柳を募集します。(表彰式・副賞あり)  
【対象】市内に在住または通勤・通学している人  
【応募方法】平成25年1月15日(火)(必着)までに、はがきまたはフアックス、eメールで作品(ふりがな、1人3点まで)、氏名、住所、電話番号、高校生以下は学校名・学年、匿名希望の場合はペンネームを、〒790-8571松山サンシヤインプロジェクト・パートナーシップ事務局環境事業推進課内 ☎ondankataisaku@city.matsuyama.ehime.jp  
お問い合わせは、環境事業推進課 ☎948-6960・FAX 934-1861

## 「誇れる」地域の宝 編 味酒

都会のオアシス・庚申庵  
松山城の北西に広がる人口2万3325人、1万2061世帯(11月1日現在)の味酒地区。江戸時代は商業の中心として栄え、現在は庶民の台所・萱町商店街として買い物客らに利用されています。

藩政時代、お堀の北西の端には松山藩の高札場があり、札の辻と呼ばれていました。街道の起点でもあり、ここから金毘

羅街道、土佐街道、大洲街道、今治街道、高浜街道の五つの街道が通じていました。

地区には松前町という町名があり、これは松山城を築いた加藤嘉明が築城の際、以前城のあった正木(伊予郡松前町)から商人を連れてこの地区に配したことから名付けられたといわれています。

この辺りはかつて檜物屋町や利屋町、米屋町、魚町などの町名が並び、商人・職人の町であったことがうかがえます。

市内中心部にも近く、商業施設も充実し市内・郊外電車などの交通の便も良いことから、近年は

また味酒町二丁目にある庚申庵は寛政12(1800)年、江戸時代の俳人・栗田樗堂が風流を求め草庵として建てました。平成15年には庭園として整備され、都会のオアシスとして多くの市民が訪れています。

藤の名所・庚申庵